

はじめに

足立区生物園での解説活動には、来園者に解説員が直接おこなう解説活動と、パネルなどの展示物を介しておこなう解説活動があり、共にインタープリテーションを取り入れて行っている。展示物を介して行う解説活動は、教育的効果の高いものを提供できるように、日々模索を繰り返している。ここでは、昨年行った特別展「生きもの伝説★ウソ?!ホント?!展」について、来園者の展示の活用の様子や展示を介した効果的な解説活動について紹介する。

インタープリテーションとは

インタープリテーションとは、解説員がただ教えるのではなく、解説員の感性を通して、わかりやすく伝え、体験を通して参加者が自ら気付いたり、学んだりすることを助ける教育的な活動である。足立区生物園で活動する解説員は自然や生きものと来園者をつなぐ役割を担っている。

インタープリテーションを展開して解説活動する中では、「体験から学ぶ」、「楽しく学ぶ」、「互いに(参加者同士、参加者と解説員)学ぶ」の3つの要素を大切にしている(図1)。この3つの要素を念頭におき、プログラムや日常の解説対応と展示製作にあたっている。



図1. インタープリテーションの3つの要素

「生きもの伝説★ウソ?!ホント?!展」の概要

足立区生物園では年1回の特別展を行っており、「人と生きもののかかわり」をテーマに生きものの生態や生息環境を紹介してきた。昨年は、誰もが知っていて、興味・関心を示すであろう生きものにまつわる伝説や言い伝えという文化的な切り口で「生きもの伝説★ウソ?!ホント?!展」を開催した。

展示の主な対象者は、生物園の利用者層として最も多い、幼児や小学生とその保護者に設定した。

主な概要と展示の様子は下記の通りです。

- ・開催期間：平成23年9月3日(土)～10月30日(日) ※休園日を除く
- ・参加費：入園料(大人300円、小人150円)のみ
- ・ターゲット：幼児や小学生とその保護者
- ・展示の様子：メイン会場と園内全体に解説パネル等を設置し、展開した(図2～5)。



図 2. メイン会場入り口の様子



図 3. 生体展示に合わせた解説パネルの設置の様子



図 4. メイン会場内の様子①



図 5. メイン会場内の様子②

展示に対する利用者の反応

本展示の利用者の様子は、企画段階で想定した通り、親子で楽しんでいる姿が多くみられた（図 6）。親が解説パネルを読み、生体展示を見ている子どもに説明している様子や親子で会話を交わしている様子が見られた。

また、展示期間中、アンケートを行い、特別展に対する利用者の反応を得た。自由記述の回答からは、「大人が見てもおもしろかった」「解説パネルを改めてじっくり読む機会になった」「生きもののナゾがとけてよかった」など展示が積極的に活用されている様子がうかがえた。

こうした利用者の反応や様子から、本展示が利用者の「新たな発見」に対して確実に機能していたことがわかる。つまり、インタープリテーションが効果的に展開され、利用者の「学び」を促した展示となっていたと考える。

次に、特に利用者の学びに効果的だった展示を紹介する。



図 6. 特別展中の利用者の様子

上：親子で展示を活用している様子

下：大人がパネルを見ている様子

利用者の学びに効果的な展示

アンケートや利用者の様子から、効果的だった主な展示は次の3つと考える。

①解説パネル展示

- ・ パネルの構成の工夫
- ・ ワークシートによる解説パネルへの誘導

②触って、遊んで、感じる展示「ハンズ・オン展示」

③伝説や言い伝えを検証する「検証実験展示」

これらの展示については、アンケートからも好評を得ていた。

①解説パネル展示

本特別展では、園内には解説パネルだけでも計 29 パネルを設置した（表 1）。生きものの伝説や言い伝えの謎解きが重要となるため、読み物的な要素が高い解説パネルが主要な展示物となる。しかし、文字が多い解説パネルは見てもらえない傾向があるため、製作段階ではパネルの構成や設置を工夫するとともに、利用者が解説パネルを活用する仕掛けとしてワークシートを取り入れた。

No	紹介した生きもの	解説パネルタイトル
1	キツネ	天気雨の日はキツネの結婚式って、ウソ?!ホント?!
2	哺乳類	アナウサギ
3		月にウサギがいるって、ウソ?!ホント?!
4		ブタの貯金箱がお金を増やすって、ウソ?!ホント?!
5	ハツカネズミ	ネズミはチーズが大好きって、ウソ?!ホント?!
6	鳥類	ツバメ
7		ツバメが低く飛ぶと、雨がふるって、ウソ?!ホント?!
8	爬虫類	ツル
9		ツルは千年、カメは万年生きられるって、ウソ?!ホント?!
10		カメ
11	アオダイショウ	アオダイショウは家の守り神って、ウソ?!ホント?!
12	ヤモリ	ヤモリが家を守るって、ウソ?!ホント?!
13	アオダイショウ	ヘビのぬけ殻を財布に入れておくとお金がたまるって、ウソ?!ホント?!
14	両生類	アマガエル
15		アマガエルが鳴き出すと雨が降るって、ウソ?!ホント?!
16		イモリ
17		イモリは天気によって活動場所が変わるって、ウソ?!ホント?!
18	イモリ	イモリが井戸を守るって、ウソ?!ホント?!
19	アズマヒキガエル	ガマの油が薬になるって、ウソ?!ホント?!
20	ヤドクガエル	飼育下のヤドクガエルには毒がないって、ウソ?!ホント?!
21	魚類	タイ
22		「めでたい」の「たい」は魚のタイって、ウソ?!ホント?!
23		サメ
24		おろし金より、サメ肌でおろすワサビの方がおいしいって、ウソ?!ホント?!
25	サメ	サメは海の殺し屋って、ウソ?!ホント?!
26	オオウミウマ	タツノオトシゴは竜の子どもって、ウソ?!ホント?!
27	デンキウナギ	ウナギだって地震を予知するって、ウソ?!ホント?!
28	昆虫	スズメバチ
29		スズメバチの大きな巣を玄関にかざるとお金持ちになるって、ウソ?!ホント?!
30		タマムシ
31		タマムシをタンスに入れておくと、衣装持ちになれるって、ウソ?!ホント?!
32		チョウ
33		チョウは翅を閉じてとまり、ガは開いてとまるって、ウソ?!ホント?!
34	クロスジギンヤンマ	トンボが目回すって、ウソ?!ホント?!
35	虫の音	虫の音を楽しむのは日本独特の文化って、ウソ?!ホント?!
36	セイヨウミツバチ	ハチにさされたら、おしっこをかけると良いつて、ウソ?!ホント?!
37	その他	カタツムリ
38		カタツムリは雨の日にしか動かないって、ウソ?!ホント?!
39		ホウネンエビ
40		田んぼにホウネンエビが多い年は豊作って、ウソ?!ホント?!
41	アシダカガモ	朝クモを殺すと、悪いことがあるって、ウソ?!ホント?!
42	クロベンケイガニ	カニが家の中に入ってくるのは大雨のしるしって、ウソ?!ホント?!

表 1. 解説パネル一覧

・解説パネルの構成と設置の工夫

解説パネルを見てもらえるように、構成を工夫した。誰もが興味をくすぐられるようなタイトルとイラストを大きく入れ、目を引くようにした(図7)。

さらに、解説パネルの設置についても、生体展示やそれに関する展示物を一緒に見られるように工夫した(図3)。生体展示など実物やそれに関するものが近くにあることで、解説パネルの内容をすぐに確認することができた。また、生体展示が生きものに興味をもつきっかけとなっていたのに対し、解説パネルは、その興味を深めることに役立っていた。

このように、パネルが目を引きものであること以外にも、生体展示などと組み合わせた展示方法によって、文字が多い解説パネルも効果的に活用されていたと考えられる。

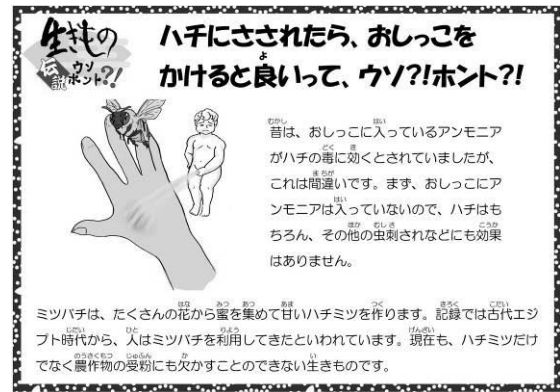


図7. 解説パネル

・ワークシートによる解説パネルへの誘導

利用者が積極的に解説パネルに目を落とす仕掛けとして、解説パネルを見るとヒントや答えがわかるクイズラリー形式のワークシート「生きもの伝説のナゾをとけ!」を取り入れた。ワークシートはメイン会場入り口に置き、利用者が自由に手にとれるようにした。ワークシートの対象は小学生以上で、やり方は、次のとおりとした。①ワークシ

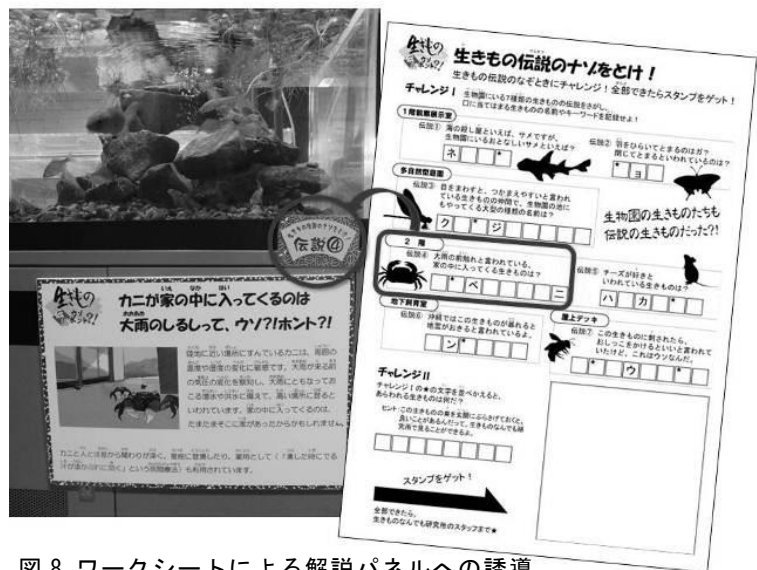


図8. ワークシートによる解説パネルへの誘導

ートに書かれているクイズの番号、例えば、「伝説④」を探す(図8)。②その解説パネルや生体展示を見て、答えを見つける。③全問題を解き、答えの星印の文字を組み合わせると、生きものの名前が現れる。④解説員と答え合せをすると、スタンプがもらえる。

また、常連の利用者も多いことから、ワークシートは3週間に1回内容を変え、5種類あるスタンプを毎日代えるようにした。

スタンプをもらえるようにすることで、解説員からの直接的な解説を受けることができ、利用者の学びを高めることができた。ワークシートは子どもだけでなく、親子で活用している場面も多く見られた。また、小学生以上を対象としていたが、幼児でも保護者と一緒にワークシートを活用している姿も見られ、ワークシートは解説パネルへの誘導として効果的であった。

②触って、遊んで、感じる展示「ハンズ・オン展示」

体を動かしたり、自分で考えながら取り組める「ハンズ・オン展示」を取り入れた。人気が高かった「ツバメの天気予報」では、雨が降る前にはツバメが低く飛ぶという言い伝えを疑似体験できるように、自分で天気を設定し、フックを移動させると、ツバメの飛んでいる高さが変わるようにした（図9）。また、解説員が入って解説することで、ツバメの生態と共に言い伝えの謎解きも伝えることができた。その他にも、ヘビの脱皮殻やサメ肌を実際に触れるものやゲーム感覚で遊べるハンズ・オン展示を設置した（図10）。



図9. ツバメの天気予報展示で遊ぶ子ども

ハンズ・オン展示は、普段はなかなか体感できないことが体験できるため、利用者の印象に残りやすく、学びも多く、どれも好評だった。また、解説員と一緒にハンズ・オン展示を活用することで、その生きものの生態や伝説・言い伝えについても解説することができ、体験的な学びを提供する場になっていた。



図10. 触れる展示 左：触れるヘビの脱皮殻展示 右：触れるサメ肌展示

③伝説や言い伝えを検証する「検証実験展示」

展示期間中、有名な言い伝えであるカエルやイモリ、カタツムリの天気予報の信憑性について検証する展示を取り入れた（図11）。毎日11時にカエル、イモリ、カタツムリの飼育ケース内での様子を観察した。カエルは葉の上であれば、イモリは水から上がるか・水面近くにいれば、カタツムリは頭をだしていれば雨というように天気を予想した。同日15時に外の天気を観測し、予想した天気の当りはずれを確認し、その

生きもの	3	4	5	6	7	正解率	9	10
カエルの天気	☀	☀	☀	☀	☀	60%		
イモリ	☀	☀	☀	☀	☀	60%		
カタツムリ	☀	☀	☀	☀	☀	0%		

図11. 検証実験展示「生きもの天気予報」

日までの結果から正解率を求めた。両時間とも、解説員が周囲にいる利用者に声をかけ、利用者と共にいった（図12）。こうすることで、解説員が展示を活用しながら、利用者に伝説や生態、人とのつながりについて解説することができた。昔からこれらの生きも

のは身近な存在で、生きものたちのこうした現象を目にすることが多かった。そこから生まれた伝説や言い伝えは、現代の私たちにとっても共感できることが多く、利用者からは、「今度、観察して天気予想してみる」「私はチョウの飛び方で天気を予想したりしている」など生きものを身近に感じている様子がうかがえた。

この展示は、検証の結果がどうであったかということよりも、検証の過程で利用者が解説員と一緒に展示を活用しながら会話を交わすことで、利用者間または利用者と解説員との互いの学びの場を作ることができたことが大きな成果であったと考える。



図 12. 解説員と共に天気を予想している様子

まとめ

今回の特別展では、インタープリテーションの3つの要素を効果的に展開することができた。特に、親子の利用者では、子どもが生体展示を見ている中、親が解説パネルを見ながら子どもに説明し、互いの発見や学びを共有する姿がみられ、「互いに学ぶ」という要素が展開できた。そこには、ワークシートやハンズ・オン展示によって楽しみながらも、解説パネルを見たり、解説員が入ることにより学びを得ている様子があり、「楽しく学ぶ」という要素も展開できた。さらに、ハンズ・オン展示や検証実験展示を活用している様子から、「なるほど」「だからなんだね!」という声が聞かれ、学びや新たな発見を「体験から学ぶ」様子も見られた。さまざまな展示が存在する中で、それぞれの展示のもつ「学び」の効果が相互作用しながら、特別展全体で相乗効果を生み、インタープリテーションが光る展示となったと考えられる。

また、今回の特別展は、利用者だけでなく、多くの場面で解説員が活用する展示にもなっていた。インタープリテーションを展開した展示では、利用者に活用してもらえる展示であることだけでなく、解説員が解説に活用できる展示であることが大切である。そうすることで、より教育的効果の高い展示を提供することができる。つまり、利用者に対する教育的効果を高めるためには、展示物だけではなく、解説員が展示を積極的に活用し、利用者への直接的な解説活動も同時に行っていくことが必要不可欠と考える。